



コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続)
優秀賞(林野庁長官賞)

アベマキ学校机プロジェクト

岐阜県立森林文化アカデミー、美濃加茂市、可茂森林組合、美濃加茂市立山之上小学校、株式会社丸七ヒダ川ウッド、岐阜県森林研究所

評価ポイント 上級生が机を作り1年生に贈るという、木づかいの思いが引き継がれていく点、学校という継続性のある仕組みの中で取組まれている点は意義深い。木の天板作りも6年生の木工であれば無理なく作りやすく学校教育、木育の面からも評価できる。取組全体にまとまり感があり、ステークホルダーすべてが関与していることは重要である。

概要

アベマキ学校机プロジェクトでは、岐阜県美濃加茂市北部に群生しているアベマキを使い、地元の小学校で生徒たちが毎日触れる学校机の天板を制作します。アベマキはかつての薪炭利用がなくなり放置され、かつ材の性質も反りや割れなどが激しいため木工用途としても活用されてきませんでした。しかし非常に硬い材であり机の天板用の材料としては最適です。乾燥試験を繰り返し、反り、割れなどの欠点を克服することで有効利用を促します。このプロジェクトでは、生徒らは、5年生の冬にアベマキの伐倒現場を見学します。伐倒されたアベマキは製材、乾燥され、天板に加工しますが、6年生になったらその一部を体験します。こうして出来上がった天板は翌年入学してくる新一年生に贈られます。この流れを毎年実施しながら、里山の整備と地域材の循環、そして子どもたちへの地域の自然に対する心を育てていくことを目的として、岐阜県美濃加茂市、可茂森林組合、岐阜県立森林文化アカデミーが中心となり、地元の小学校や製材所などと本活動を進めています。この地域内で完結する身の丈にあったプロジェクトということも特徴です。

◆http://gifuforestac.blogspot.jp/2015/08/blog-post_20.html

006



コミュニケーション分野 | 普及・啓発(システム化)
優秀賞(林野庁長官賞)

東京おもちゃ美術館「ウッドスタート」

特定非営利活動法人日本グッド・トイ委員会

評価ポイント 生まれた土地の木で赤ちゃんのおもちゃを作り、贈る。川の流域、地域、木材産地など汎用性がある取組であり、木のおもちゃと子どもの育ちという点に温かく、卓越したメッセージが込められている。同様の仕組みで他分野への展開の可能性も感じられる。

概要

ウッドスタートは、東京おもちゃ美術館が取り組んでいる木育推進事業のこと。「ファーストトイは地産地消の木のおもちゃから」を合い言葉に、全国各地の自治体が、地域材を活用した東京おもちゃ美術館監修のオリジナル木製玩具をプレゼントする事業を展開しています。2011年4月に東京都新宿区が開始したのを皮切りに、北海道雨竜町、群馬県上野村、東京都檜原村、岐阜県美濃市、宮崎県日南市、沖縄県国頭村など、13の自治体がすでにウッドスタート宣言をしています。さらに今年度末までに、10近くの自治体が宣言を予定。全国各地にウッドスタートの風が吹き荒れています。このウッドスタートは、当該自治体の誕生祝い品事業にとどまりません。同じくウッドスタート宣言をした企業(良品計画、内田洋行など9社)が、社員やお客さんにプレゼントする誕生祝い品としても採用されています。東京おもちゃ美術館のイベントや全国ネットワークを活用しての販売も行われています。「地産地消」から「地産外消」へ。そしてもちろん赤ちゃん時代にとどまらず、食器や勉強机、ベッド、マイホーム、最後は棺桶まで、くらしの中に木を取り戻す運動でもあります。

◆<http://mokuikulabo.info/ws/>

007